

八王子市立第四・第十・大和田小学校

放課後子ども教室 囲碁教室だより

二十三号 2018年7月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <http://naritas.jp/wp1/>



北 野囲碁同好会会長の山縣文雄と申します。私が初めて碁に接してからもう75年位たちます。8歳か9歳の頃父から手ほどきを受けて、世の中にこんなに面白いものがあるんだと思ったことを昨日のこのように覚えています。ところが戦争で中断せざるをえなくなって本当に残念に思っています。働くようになってようやく碁会所に行ったり本を読んだりするようになりました。碁の友達もだんだん増えました。囲碁はただ楽しいだけでなく人生の大切なことをいろいろ教えてくれます。失敗したとき、初めはうろたえるばかりですが、上達するにつれてだんだん冷静に対応できるようになります。また全体を見ながらものごとを進めることができるようになります。碁を通して得られるものは限りありません。若い人には是非早くから学んでほしいと思っています。

■7月の囲碁教室の予定です。

- **第四小学校** : 7月11日(水曜日)、13日(金曜日) 午後1時30分
場所 三階 児童会室
- **第十小学校** : 7月9日、25日(水)、26日(木) 午前9時30分
場所 一階 家庭科室
- **大和田小学校** : 7月18日(水曜日) 午後1時15分
場所 二階 第二音楽室



「琴棋書画は君子のたしなみ」

大 和田囲碁同好会長の鈴木浩治です。中国では古くから「琴棋書画は君子のたしなみ」といわれていました。琴は音楽、棋は囲碁、書は書道、画は絵画です。平安時代の源氏物語絵巻にも女たちが碁を打つ様子が描かれています。日本でも貴族のたしなみだったようです。現在、音楽、書道、絵画は学校教育に取り入れられているのに、囲碁は正課の授業としてはごく一部の学校でしか行われていません。政府が明治時代に近代教育制度を作るときに、官僚が参考にした欧米に囲碁がなかったからという説もあるそうです。ちなみに「棋」は「碁」、「碁」の異体字で、中国語で囲碁は「圍棋」だそうです。碁会所などに行かなくとも、インターネットには多くの対局サイトが存在します。気軽に囲碁を楽しめる時代になっています。囲碁を打っている者としては、どんどん普及していつてもらいたいなと期待してやみません。

◆**囲碁から生まれた言葉 「八百長」** 江戸時代、八百屋の長兵衛という人がいました。通称八百長さん、近くにいた相撲の親方と囲碁を打っていたのですが、なぜかいつも一勝一敗で終わります。じつは八百長さんは親方より強かったのです。ご機嫌をとってうまい具合に負けてあげたのです。八百長さん、さすがですね。

◆第七回八王子市子ども囲碁大会の結果です。6月24日 日曜日

第四小の安田さん、佐藤君、五十嵐さん、高橋さん、古谷くん、佐藤君、第十小の藤巻君、原島君、そして大和田小の山下さん、やおさん、林さん、松本さん、内藤君が活躍しました。良かったです。